



# 民族

異文化へのまなざしと探求、受容

# 衣装

2021年11月1日[月]



2022年2月7日[月]



トルコ風イヴニング・ドレス  
フランス パキヤン  
1918-19年

開館時間=10:00→16:30

11月12日、1月21日は、19:00まで開館、入館は閉館の30分前まで

休館日=日曜日・祝日・年末年始休館(12月28日~1月5日)

主催=文化学園服飾博物館 協力=文化学園大学図書館

入館料=一般 500 円、大高生 300 円、小中学生 200 円

障がい者とその付添者1名は無料

※混雑時には入館をお待ちいただくこともございます。

※状況により開館日、開館時間等、予定が変更される場合があります。

最新の情報はホームページでご確認ください。



## 異文化への まなざしと 探求、受容

世界では、それぞれの地域で多様な民族衣装が着られています。それは現代では誰もが理解しうる感覚ですが、情報が少なく世界が隔てられていた時代には、自分たちと異なる民族がどのような生活をし、どのような衣服を着ているのかを容易に知ることはできず、それを知ることは人々の好奇心を満たし、また重要な情報のひとつとなりました。展示では、民族衣装が描かれた書物や、民族衣装の研究、フィールドワークなどに焦点を当て、ヨーロッパや日本において、アジアやアフリカの民族衣装がどのようにとらえられてきたのかを探ります。またデザインやカッティングなどに民族衣装の影響を受けたヨーロッパのドレスを、元となった民族衣装とともに紹介します。

### I 未知の世界への好奇心 [~19世紀末]

15世紀半ばの大航海時代以降、ヨーロッパの人々はアジア、アフリカへと進出し、そこで見た自分たちとは異なる風俗や暮らしぶりを、好奇心や驚きとともに絵に記録しました。また、日本においても、江戸時代末期には海外の民族を描いた図絵が見られるようになりました。



『各国民の風俗、風情、慣習』エリエス著  
1821年 文化学園大学図書館蔵



『海外新島図説』金澤文館、新刊圖書  
1854年 文化学園大学図書館蔵

### II より正確な情報への欲求 [20世紀前半]

ヨーロッパ列強の植民地主義などにより人々の往来がさかんになったことで、海外の事情を知る機会が増えていきました。また写真や映像といった新しい技術は、より正確な民族衣装の記録へとつながりました。



賢心(ベリン) 中国 旅歴協會収蔵 1942年



『世界風俗博覧会』の絵はがき 三越美術店 1927年



『被服』 被服協會 1943年  
文化学園大学図書館蔵



ジャフ野郎 彩色工芸書本 1924年

### III 民族衣装のさらなる探求 [20世紀後半]

1960年代以降、海外への渡航が容易になり、各地域の人々の生活が正確に伝わるようになりました。民族衣装は多様な文化の一つとして認識されるようになり、実際に現地に赴きその民族の暮らしぶりや衣装の調査を行うなど、自らの足で情報を得ようとする研究者も増えていきました。



ドレス:ケニス  
アフガニスタン  
松島きよ子収蔵  
1970-80年代



コート:ゴ  
ブータン  
小川京子収蔵  
1976年

### IV 民族衣装の模倣、受容 [ヨーロッパの流行への影響]

19世紀後半から20世紀初めにかけて、ヨーロッパでは東洋の文化に影響を受けた異国趣味が流行し、ファッションに取り入れられました。また1960-70年代になると、若者たちを中心とした大量消費社会への反動から、自然回帰の象徴としてフォークロア・スタイルが流行しました。



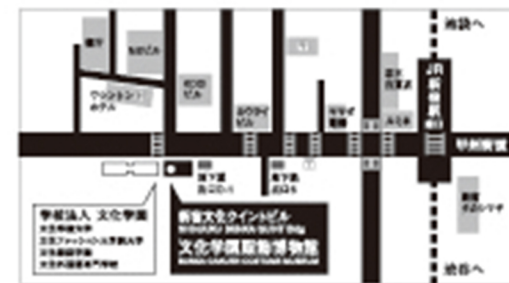
トルコ風  
イヴニング・ドレス  
フランス パキヤン  
1918-19年



中国風の  
豪華の宮内装  
フランス  
1910年代



ウズベキスタンの  
新装チュニック  
フランス イヴ・サンローラン  
1980年



文化学園服飾博物館  
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル  
TEL.03-3299-2387 JR-有王線・小田急線新宿駅(南口)より徒歩7分  
都営地下鉄副都心線/丸の内線/丸の内線副都心線より徒歩4分 地下鉄丸の内線/丸の内線副都心線より徒歩4分

学校法人文化学園  
文化学園大学/文化ファッション大学院大学/文化服装学院  
文化外国語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館